

楽友会通信 No.55

2013/12/10 指笛楽友会発行

♭ ♪♪♪♪♪♪ ♯ ♪♪♪♪♪♪ ♭ ♪♪♪♪♪♪ ♯ ♪♪♪♪♪♪

*** 目次 ***

-頁-

1. 指笛音楽創始者 田村大三 生誕 100 周年記念
79 周年「指笛音楽研究発表会」が開催されました有吉憲行 - 1-
2. 指笛・発表会のプログラムと出演者の一言集(別紙)有吉憲行 - 3-
3. 指笛とパンフルート竹中速雄 - 4-
4. 指笛と手品とさえずりと笹原和則 - 6-
5. 全国レクリエーション大会・福岡大会で指笛の指導塩谷彰宏 - 8-
6. 指笛は国境を越える 塩谷彰宏 -10-
7. 光が丘公園での野外演奏練習会有吉憲行 -11-
8. 総会・新年会のお知らせ・・出欠は同封葉書にてお知らせ下さい・・事務局 -12-

1. 指笛音楽創始者 田村大三 生誕 100 周年記念

79 周年「指笛音楽研究発表会」が開催されました

練馬文化センター小ホールにおいて、9月21日(土) 13時に開演された 田村大三生誕100周年記念、79周年「指笛音楽研究発表会」が無事に終了しました。

土曜日昼間の開催であったため、入場者は昨年より多く 400 人程に達しました。演奏に先立って楽友会会長の斎藤秀元氏から次のように、ご挨拶がありました。“皆さん今日は



今年は私共の指笛の先生田村大三先生の生誕 100 周年にあたります。先生が秋田の小学校 6 年生の時に、新任の体操先生が、集まれピーツと指笛で合図された音に魅了されたのです。田村少年はこれでメロディーが吹けないだろうかと思いつき、毎日練習して頑張り、それでメロディーが奏でられるようになりました。こうして田村先生は指笛音楽の創始者となりました。

1934年(昭和9年)に田村先生が神田神保町のすずらん通りで指笛を吹き、街頭デビューしてから今年で79年となります。本日は皆様、私共の指笛を是非ごゆっくり、お聴き頂きお楽しみ下さいますように。最後には先生の奥様の歌声を聴くことができます。素晴らしい歌ですよ。そのあとには指笛創始者である田村大三先生の後継者である三女のメミ・グレースさんが登場します。素晴らしい歌と一緒に指笛を奏でます。皆様は指笛に魅了され、心をうばわれるのではないかと思います。

そして皆様方がこれからも続けて指笛のファンになって下さると、こんな嬉しいことはございません。是非皆さんのお力を頂いて指笛をだんだん普及させて行きたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。“

斎藤会長ご挨拶後に第一部最初の出演者、中澤忍さんが「鎌倉」と「庭の千草」を見事に指笛演奏して下さいました。これで会場の雰囲気是和やかになりましたので、私達後続の出演者は緊張感がほぐれて演奏しやすくなりました。深く感謝いたします。

この日のプログラム内容は別紙にあるとおりです。挿入されている出演者の一言集には各人の思いが綴られています。

第二部後半での田村静海先生の歌、「初恋」、「今の歌声」(セリヴィアの理髪師より)及びメミ・グレースさんの指笛「村の娘」「Stand Alone」「アニュス・ディ」(神の子羊)も素晴らしかったです。お聴きになられたお客さまは感動されたようでした。

最後に出演者全員で「故郷」を指笛演奏し、沢山の拍手を頂いて幕を閉じました。

お客様はきっと充分にお楽しみになられ、満足されてお帰りになられたことと思います。

今回の成功も田村ファミリーをはじめ、楽友会の皆様方と関係各位のご支援と御協力があったからこそと、お礼申し上げます。

<事務局に寄せられたお客様の声など>

○ 下記の方々より貴重なご寄付を頂きました。

間所ひさこ様、 東 駒子様

いつもご協力、ご支援ありがとうございます。

○ 次の方々からお礼のお便りを頂戴いたしました。お忙しい中ご丁寧にありがとうございます。励ましを頂き感謝申し上げます。編集上一部省略させて頂き、ここに紹介させて頂きます。

(足立区N・H様) この度は楽しく有意義なときを過ごさせて頂き有りありがとうございます。お陰様で身も心もリフレッシュ出来、また皆様から沢山のパワーを頂き、ますます元気がわいてきました。又の機会を楽しみにしています。… 以下略

(練馬区Y・T様) 「田村大三先生生誕百周年記念発表会」、何ともその明るい響きが頭に残っています。私はだいそれた楽器の音色より自然が好きです。今回は田村先生のご家族、藤好さん親子、唯一若い栗田君の出演に気をひきました。… 略 …

「影を慕いて」は亡き夫のオハコ！でなつかしくききほれました。どうか健康で末永く御活躍されることをお祈りいたします。

(中野区N・M様) 熱演に続く熱演で、会場は大変盛り上がっておりました。今後も不思議な指笛の音楽を聞くことを楽しみにしております。

(所沢市M・H様) 指笛楽友会 79 周年の発表会とっても楽しいひとときでした。ありがとうございました。…… 大三先生ご生誕百年という大きな節目にふさわしく、皆様それぞれに工夫されたプログラムで、客席もわいていました。…… 少しずつでも、後につづく若い世代が育っていくといいですね。… 略 …

(川崎市O・N様) 先日は指笛発表会にご案内頂きありがとうございました。お陰様でいい一日となりました。記念の会全体に力みなぎってました。…… 来年も楽しみにしております。

○ 今回も出演者が青森県、福岡県、愛知県、長野県、群馬県、埼玉県、神奈川県、千葉県、の各地から、お客様も沖縄県、宮城県、山梨県などから上京くださいました。指笛楽友会は小さな会ではありますがこのように全国規模で活動しております。皆様方のますますのご支援・ご協力をお願い申し上げます。



2013.09.21(土) 発表会の最後に出演者全員で「故郷」を指笛演奏しました。

2. 指笛・発表会のプログラムと出演者の一言集(添付別紙)

今回の「[指笛音楽研究発表会プログラム](#)」と「[出演者の一言集](#)」は別紙として、この楽友会通信に添付して同封されていますのでご覧ください。指笛のホームページ <http://yubibue.net/> の楽友会通信 55 号でもご覧になれます。一言集をお読みしますと各出演者の感謝の思い、選んだ曲への思い、指笛を奏でたい思い等が伝わってきます。

3. 指笛とパンフルート

竹中 速雄

去る9月21日(土)の指笛音楽研究発表会では、会長ほか役員会のご了解を得て、指笛に加えてパンフルートを演奏することができました。発表会后、多くの方々からどういう楽器なのか?名前の由来は、などの質問が寄せられました。今回楽友会通信の編集責任者となっている有吉様から、「指笛とパンフルート」について執筆の依頼がありましたので、この機会に臆面もなく筆を執ることにした次第です。ご了解ください。



発表会に先立つ9月14日(土)、町田市の「草笛サロンせりがや」でパンフルートの演奏をすることになりました。これは、発表会に向けたUスタジオでの練習の際、パンフルートの音色を気にかけてくれた有吉様が、ご自身が町田市で定期的に地域の方々を集めて歌や草笛を楽しむサロンを続けておられて、このサロンの参加者にパンフルートを聴かせてやって頂きたいとの要望があつて実現したものです。

当日は20名ほどの方が集まりました。興味津々のお顔、皆さん楽器を見るのは初めて、もちろん音を聴くのも初めてとのこと。まずは1曲披露すると、質問が集中しました。以下、まとめてみます。

①そもそもパンフルートは、なぜパンなのか? この楽器の由来はギリシャ神話に遡ります。ギリシャ神話と言えば、紀元前15世紀頃に遡り、紀元前9世紀から8世紀頃に体系的にまとめたのではないかとされています。

さて、この神話には神々が登場します。天を司るゼウスを筆頭に沢山の神々です。その神の一人に、牧畜を司る「パン」という神様がいました。パンの姿は、上半身は男性で頭には角が2本あり、下半身は四足という姿。パンはあるとき妖精を見染めて恋に陥り、必死でこの妖精を追いかけます。ところが、妖精はパンを嫌がって、逃げまどいます。パンが追いかける。妖精は逃げる。とうとう逃げ場のない湖の岸に来てしまいました。妖精は絶体絶命という場面。この様子を見ていた天の神ゼウスは、妖精のことを可哀そうに思い、彼女の姿を葦に変えてしまいます。パンは大変驚きましたが、せめてもの形見にと、その葦を切り取ります。その切り口に、湖を渡る風があたり、美しい音色が生じました。そこでパンは何本かの葦をまとめて笛を作ったのです。そしていつも持ち歩き、その笛を吹いていたそうです。以来、パンの笛、パンフルートと呼ばれています。因みに、小生の持っているパンフルートの素材は葦ですが、竹製や、木をくりぬいたもの、或いは石などもあるそうです。

想像上の物語とはいえ、紀元前 9 世紀から 8 世紀頃に登場しますので、パンフルートは世界最古の楽器とも言われています。

②今どこの国に演奏方法が残されていますか？ ルーマニアや、スイスに残されています。

③楽器は高価ですか？ 日本では手に入りませんか？ 葦製のものはとても高く、日本では売っていません。スイスとか、ルーマニアで直接買い求める以外はなさそうです。一方で竹製のものには韓国製があったり、日本でも広島県の方が製作したりしています。これらは手ごろな値段で入手可能です。インターネットで検索できます。

④指で押さえるような穴は無いのですか？ 吹くだけですか？ 指で押さえる穴はありません。子供の頃、空きビール瓶の口を吹くとポーという音が出たのと同じ要領です。低い音は口径が大きく長いもの、高い音は口径が小さく短いもの、それらが右側の低音部から左側の高音部へと順番に並んでいます。吹くだけで、吸うことはできません。

⑤半音はどうやって出すのですか？ パンフルートを斜めにして吹くと、その管の音が半音下がります。この要領で半音下げます。半音上げようとする、一つ上の音階の管で半音下げてやるのです。ですから＃はなく、♭ばかりになります。

以上、まだまだありましたが、町田でのサロン活動は、和やかでとても楽しい会になりました。またお会いするのが楽しみです。

実は、パンフルートを練習するうちに、指笛とパンフルートは両立するか、その課題に直面することになりました。ご存知のとおり指笛は下唇がリードのような役割になっています。一方、パンフルートも下唇を使って管に息を吹き込むものです。ところが、パンフルートを練習していると、特に湿度の高い季節には管と管の間の滑りが悪くなります。長時間練習していると下唇が割れて血が出ることもしばしばあり、そうなるとう指笛の練習もできなくなります。そして何より困ったのは、下唇を使い過ぎて、指笛の音にまで影響がでたことです。これには困りました。両方練習して、結局どっちつかずになるのではないかと悩みました。実際ボランティア活動で演奏していて、つまづくこともありました。そこで出した結論。それは、とにかく練習を続けてみよう、下唇の筋肉が鍛えられれば慣れてくるはずだ、ということです。そしてとうとう 10 年以上経ちました。毎日両方を練習するうちに何とかなるのでは、と思えてきたところです。ツラの皮のみならず下唇自体も鍛えられて厚くなったのだと思います。

さて、小生のボランティア活動は、指笛演奏、パンフルート演奏、それにハーモニカ伴奏による歌、という三部構成で行っています。

演奏後、「指笛もよかったけど、パンフルートの音色はとってもいいですね、癒されます」、という言葉を度々いただきます。小生としては大変嬉しいお言葉ではありますが、ちょっとひっかかるものがあります。小生の中では、田村先生から授かった指笛がまずあって、パンフルートはその次に位置付けているものですから、内心「パンフルートもいいけど、指笛はもっと素晴らしかった」と言ってもらいたいものだと思っています。口には出しませんが・・・そう言われるように日頃の練習は続けております・・・。

4. 指笛と手品とさえずりと

笹原 和則

細かい記録を残さない方なので、少し前の事でもとても曖昧にしか書けない事に愕然とします。1999年には既に大三先生の大泉学園のお宅に伺っていたような記憶があります。地下室で、つたない指笛を先生に聞いて頂いた事も一度だけあります。いつだったか、先生のお宅に通えないながらも正式に挨拶をしておこうと、あらためて伺って、ダイニングテーブルに先生と静海先生と、なぜか長女の洋美さんがいて、大三先生に「弟子にして下さい」と言いました。先生はちらっと周りに目を走らせて、それからおもむろに無言でテーブル越しに握手を求めてられました。以来、僕は生活するのがやっつとで、弟子らしい事を何一つせず、勝手気ままな指笛練習、指笛活動。田村先生の音と奏法を受け継いでいる方の音色を聞くといつも、なにかしらコンプレックスと残念な気持ちで胸が締め付けられるような気がします。その後、大三先生の「僕はアーメンだから」という言葉に導かれるように、福岡中部教会に通うようになり洗礼を受けました。

ご承知の通り、東京の発表会への参加もままならず、あいかわらずの糊口(ここう)暮らし。大見得を張りながら、無茶もしながら人前での演奏を少しずつ続けて来ました。無茶といえば、先日の発表会の打ち上げで、酔っ払った勢いでなんの脈絡もない手品を大声でやってしまいました。指笛にまつわる真摯な姿勢や 100 歳になられる大三先生の思い出とはかけ離れた行動で、翌日自己嫌悪に陥りました。

その手品の話をしておきます。

北大の原子工学科を中退した後、札幌を中心に司会の仕事をやっておりました。一流ホテルで働く三流司会者は、なんでもやるために、いろいろな芸に手を出しました。司会者にとってはテレビで見かけるおしゃべりマジックというのは便利でした。イベントでご一



緒したマジシャンにネタをいくつか教わったり、札幌アマチュアマジシャンズクラブに入会して、当時の金森会長に大きなリングを頂いたりしながら勉強しました。外国からのビデオやレクチャーはとても興味深いものでした。ある時点でネタを追い求める事に疲れ基本の手品だけ残して引越しのときに処分してしまい、司会も廃業しました。今は好きな手品をいくつか、何度もくり返しやっています。たぶん最新ではない基本的な手品を一生やって行くだろうと思います。

さて、もう一つ今回の発表会で披露した小鳥の鳴きまねの話をしてします。

指笛を熱心にやっていくうちにロニーロナルドさんとの交流が YahooGroupe(US)であり、奥様からCDを買い、ニュージーランドのビデオを送っていただいたり、こちらの太宰府のお土産を送ったりしました。氏の演奏はどれも大好きでしたが、トリッチトラッチポルカが気に入って、なんとかマネをしようと悪戦苦闘して、自分なりの芸の一つに勝手に取り込んでしまいました。

(Youtube では、 **Tritsch Tratsch Polka - whistled by Ronnie Ronalde**)

私たちには大三式があり立派な音が出るので細い指をあえて使う必要はなかったわけですが、細い指二本で、指笛を鳴らしながら舌でつまむようにするといろいろな鳥のさえずりに似た音が使えます。息で舌を震わせるとコジュケイ等もできます。いつの間にかカッコウワルツの間に入れるようになりました。

今、ボランティアで、指笛とピアノとおしゃべりで50分くらいやるにしても、ちょっと手品の時間を入れてみたり、ピアノソロをお願いしたりその他に皆さんで歌ったり、構成を考えてやるようになりました。そんな事ができるのも、四苦八苦してきた人生のおかげだと思います。

前にも書きましたが、2002年にオクラホマのタルサでの口笛のイベントに指笛で参加しました。その時の主催者だったロバートさんが、後年シルクドソレイユに入り、コルテオという公演で世界中を回り、2010年には福岡にもやって来ました。せっかく日本に来たのだからあのイベントの日本版をやろうよと、2010年4月10日川崎で口笛のイベントがありました。僕も参加し旧交を温め、その翌日11日に気にかかっていた大三先生のお宅を訪問しました。今思うと忘れられない日になりました。

その頃に介護の勉強をしていたので、褥瘡(じょくそう)防止ベッドや痰の吸引に興味深く見て、大三先生の細くなった手に触れ「指笛をありがとうございます。」と言いました。大三先生は目をちらっと動かして、お部屋の入り口近く上方をじっと見つめていました。そこにはご両親の写真があったように思います。

そして、そのほんの二週間程後、24日の午後に多くの弟子に見守られて召されたと聞いた時、空に近い財布を見つめて涙があふれてきました。不肖名ばかりの弟子は亡骸にさえ会えず、遠くで祈るのみでした。僕もアーメンだから、今後の生き方次第では、また近いうちに先生に会えますよね。なんて、勝手な事を自分に言い聞かせながら。

なんだか收拾がつかなくなってきたのでこのくらいにします。

今回の発表会も素晴らしい経験でした。本当にお疲れ様でした。

そして、今後とも宜しくお願い致します。

5. 全国レクリエーション大会・福岡大会で指笛の指導

塩谷 彰宏

私は、レクリエーション指導者の資格を取って35年になる。現在は、青森県・青森市レクリエーション協会の会長として活動を続けている。

全国で、日本レクリエーション協会に所属している人は約8万人いるが、毎年、47都道府県のどこかで「全国レクリエーション大会」が開催され、私も毎年参加している。

今年は第67回全国レクリエーション大会が福岡県で開催され、約3万人の参加者があった。プログラムはフォークダンス、日本民謡、車椅子レクダンス、マウンテンバイク、一輪車、3B体操、インディアカ等の種目別交流大会の他、ソング、草笛、ヨガ、ユーモア講座、ゲーム、高齢者向けの健康体操、介護予防等のフォーラムと多岐に渡っている。私は、下記の公募セッションで実施した。

55「指笛（フィンガーフルート）、手笛（ハンドフルート）の吹き方を伝授」

ワークショップ

私の指笛演奏暦は55年です。雪がとけた5月～8月頃は、毎朝、近くの山に行って指笛・手笛を吹いて小鳥たちとのコミュニケーションを楽しんでいます。ウグイスが一番のお友達です。私が指笛を吹くとウグイスも応えてくれます。手笛を吹くとカッコウもやってきます。この楽しみをみなさんに伝えます。練習を積み重ねると2オクターブ以上の音を出すことができ、いろいろな曲も吹けます。レパートリーは100曲以上あり、CD「指笛」も出しています。毎月4回コンサートも開催しています。吹き方を覚えて、いろいろな曲を吹いたり、小鳥たちとのコミュニケーションを楽しんでみませんか。

●日 時：平成25年10月26日（土） 16：30～17：30

●会 場：福岡国際会議場 4階 会議室401

●発表者：塩谷彰宏（青森県：（公財）日本レク協会公認レク・コーディネーター）

参加者は30人の定員で満杯の参加者があった。まず、簡単なレクリエーションで会場を和やかな雰囲気にした。続いて「ウグイス」の鳴き真似をした後、「君をのせて」の指笛演奏、そして、皆さんに手拍子をいただきながら、「月の砂漠」を指笛演奏して会場を盛り上げた。

指笛を生で聴くのは初めての人たちが多かったようで、驚きの拍手が多かったようだ。

その後、先に「手笛」（ハンドフルート）の吹き方を説明し、次に「指笛（フィンガーフルート）」の吹き方を説明し、一人ひとり巡回指導した。手笛で4～5人、指笛で3人ぐらゐの人が、音を出すことができた。



ニューヨークでの指笛ストリートミュージシャンの体験を話した後「アメージンググレイス」を指笛演奏した。

それから、今年の春、地元のテレビ、青森朝日放送の「人生満喫倶楽部」に出演したDVDを放映した。

そして、最後に「ダニーボーイ」を指笛演奏している間、アシスタントの人に手伝ってもらいながら自作CD「指笛」を販売した。9枚売れた。

受講生の感想文から、次のような声を聞くことができた。

○素晴らしい芸術にふれることができた。

○指笛すごいなーと感動した。

○先生の指笛の音がとてもきれいだった。素直に教えられたらなんか音が出た。少し音が出たときはほんとうに嬉しかった。なんとか習得して鳥と会話したい。

○もう少しで鳴りそうです。

○初めての体験でとても楽しい時間であった。むずかしかったが、先生や助手の人が親切に教えてくれた。

○感動した。もっと大きな場所で多くの人に呼びかけてもらいたかった。素晴らしい企画であった。

○「アメージンググレイス」「ダニーボーイ」「君をのせて」など、先生の指笛演奏が素晴らしかった。

1時間という限られた時間ではあったが、これをきっかけにして「指笛」を吹く人が一人でも増えてくれることを願っている。

また今後、私自身、いろいろな機会を作って、指笛音楽の普及に努めたいと思っている。

6. 指笛は国境を越える

塩谷 彰宏

9月3日から9月10日まで、青森県ユネスコ協会海外派遣団長として、タイ・ベトナムを訪問した。旅も終わりに近づいた9月9日、ハノイの「文廟」を訪れた。

ベトナムの首都ハノイにある史跡「文廟」はもともとは孔子を祀る廟堂として建てられたもので、境内には1070年に孔子を祀るために建立された廟や大学施設として使われた奎文閣などの建物があつた。

その境内の一つの建物の中で、数人のベトナムの演奏者が民族楽器でいろいろな音楽を奏でていた。ステージに向つて観光客が自由に座ることができるイスが用意されており、まわりは民芸品などの土産物を売る店が並んでいた。

観光客は世界各地から訪れるので、いろいろな国の曲が演奏されていた。なにげなく聞いていたら、「北国の春」が流れてきた。私は、指笛で合わせて演奏した。すると、土産物を買っていた人たちや、次の建物に行こうとしていた観光客の皆さんが集まってきて、聴いてくれた。民族楽器を演奏しているベトナムの演奏者たちもこちらを見ながら演奏していた。

「北国の春」が終わったら、私に向かつて親指を立てて「イチバン！ イチバン！」と喜んでくれた外国の人たちもいた。

アンコールがかつたので、ベトナムの演奏者と打ち合わせをして、「さくらさくら」を合奏した。



ベトナムの民族楽器と指笛による「さくらさくら」のメロディが建物の中に流れ、観光客からたくさんの拍手をもらった。

終わった後、ベトナムの音楽家から手招きされ、指笛の吹き方を尋ねられたのでステージの上で説明した。

私は、以前にニューヨーク・ブロードウェイのストリートミュージシャンで「アメージング・グレイス」を指笛演奏し、いろいろな国の人が集まって来た経験がある。

また東京新宿で、ポリビアの青年たちのギター・ケーナと指笛演奏「コンドルは飛んでいく」の合奏で人が集まって来た経験もある。

ある国際交流を目的としたアンケートで「音楽は国境を越えるか」と調査したところ、

97パーセントが「音楽は国境を越える」との回答があったそうだ。

このようなアンケート調査をするまでもなく、メディア等でも一般論として「音楽は国境を越える」という意見を耳にする機会が多い。私自身もちろん「音楽は国境を越える」と思っているし、「指笛は国境を越える」と信じている。

7. 光が丘公園での野外演奏練習会

有吉 憲行

数年前から楽友会の年度計画で提案されていましたが、このたび斎藤会長の交渉によりアコーディオン伴奏者の協力が得られる事になり、初の野外演奏練習会が実現しました。

11月2日（土）10時半に大江戸線光が丘駅改札口に集合した楽友会メンバーは、駅から歩いて15分ほどの都立光が丘公園（練馬区）中央の芝生広場へと向いました。

今回、アコーディオン伴奏して下さる方は斎藤会長の元職場にいらっしゃった同僚の安永しのぶ様です。私達は丸いテーブルを囲み安永様が奏でるアコーディオンの名伴奏に応じて、斎藤会長が準備された楽譜歌詞により、合奏で「上を向いて歩こう」、「ピクニック」、「紅葉」、「旅愁」等を草笛や指笛で演奏しました。

そうしているうちに、子供たちが物珍しそうに寄って来ましたので、私達は「さんぽ」を吹いたりしました。子供さんたちは笑顔で喜んでくれました。



また各自が好きな曲をアコーディオン伴奏付で草笛や指笛の個人演奏もしました。その後、昼食を終えた頃に、雨がポツポツ降り始め移動しましたが、少雨でしたので、いちよう並木の下で演奏を続けました。14時半に終り、長時間アコーディオンを演奏して下さった安永様に厚くお礼を述べてお別れしました。

この日はとても楽しく、ピクニック気分で演奏や練習ができて、有意義な一日を過ごしました。楽友会会員の参加メンバーは五十音順に 有吉潤子、有吉憲行、有賀猛、奥津恭子、片山陽一、河津菊枝、斎藤秀元、斎藤景子、中澤忍、藤好真也、の10人でした。

8. 総会・新年会のお知らせ

事務局より

(1) 総会・新年会のご案内

期日：2014年(平成26年)1月12日(日)

会場：大泉学園駅南口 徒歩5分 Uスタジオ

住所：東京都練馬区東大泉 6-34-28 陵雲閣マンション B107 半地下1階右奥

TEL/FAX 03-3924-6455

▽ 案内図 ▽

時間：10:00～11:30 役員会
及び希望者の指笛練習

時間：12:00～15:00 総会と
新年会を開催します。

会費：4,000円(予定)

出欠の連絡及び委任状：楽友
会会員は同封の葉書にて出欠
を、なお欠席する場合は委任す
る旨を、12月28日(土)迄に
斎藤会長宛にお知らせ下さい。



(2) 2014年の80周年記念「指笛音楽研究発表会」のご案内

来年2014年の発表会は11月1日(土)12:30 練馬文化センター(小ホール)にて開催予定されています。皆様のご参加、大勢の方々のご来場をお待ちしています。

* 編集後記 (有吉憲行)

この楽友会通信55号は指笛音楽創始者 田村大三 生誕100周年記念及び79周年記念「指笛音楽研究発表会」の特集号となりました。皆様方のご協力により、予定通り12月に発行できる事に感謝致します。

竹中様、笹原様、塩谷様には指笛に関しての体験談、興味あるお話を寄稿して頂きました。とても有益なお話で、私達の参考になりました。まことに有難うございます。

なお発表会の「プログラムと出演者の一言集」は竹中さん・武井さん・栗田さんのご努力により出来上がったものです。厚くお礼申し上げます。

今回楽友会の皆様方、関係各位の一致協力により、田村大三先生生誕100周年及び79周年記念「指笛音楽研究発表会」が無事に終了できたことは喜ばしいことです。これからも皆で協力して、より良い指笛楽友会へと明るく発展させましょう。